

## 巻頭言



### 鋼管特集号発刊に寄せて

川端 廣己\*

新日鐵住金(株)の鋼管事業部は、昨年10月の統合新会社発足により、世界No.1のシーMLS鋼管技術と溶接鋼管技術が融合することで、世界市場におけるあらゆる鋼管需要に対応できる体制が整いました。

これまで各分野のお客様からいただいたニーズにお応えすべく、当社が長年培ってきた技術開発力により、多くの新商品、新技術を市場に提供し、社会に貢献して参りました。これもひとえに、お客様皆様のご支援とご指導によるものと深く感謝申し上げます。

鋼管は、エネルギー、自動車、インフラストラクチャ向けとして社会基盤を支える、ますます重要な商品となっており、これらの期待に応えていくことが当事業部の使命と考えております。

エネルギー分野における油井管では、5000mを超える深井戸開発が進められるとともに、シェールオイル/ガスの開発も活発化しており、これらに適した、高強度、高耐食、高圧潰特性を有する材料を開発、提供して参りました。さらに、ねじ継ぎ手においては、シール性に優れた特殊ねじや環境負荷物質を含まない表面処理技術を開発し、地球環境保護に貢献しています。一方、ラインパイプにおいては、超高強度鋼管の実用化により輸送効率向上を図るとともに、-40℃以下の寒冷地や深海域でも使用可能な高靱性鋼管を商品化しております。火力発電用ボイラ鋼管においては、国家プロジェクトに積極的に参画して高温耐食材料を開発し、エネルギー効率向上と二酸化炭素排出削減に寄与しております。

自動車分野においては、高強度鋼管の商品化、利用加工技術や薄板、棒線との総合ソリューション提案により、ますます厳格化する軽量化と衝突安全性向上への要求に対応して参りました。特に、3次元熱間曲げ焼入れ(3DQ)技術は世界に類を見ない新技術として注目され、すでに実用化が始まっています。

インフラストラクチャ分野においては、高機能鋼管商品開発、鋼管継ぎ手等の利用加工技術開発を推進し、耐震性能向上、施工費用削減、補修費用低減等の多様化したニーズに対応して参りました。中でも、コンクリートとの付着性が高い段付き鋼管は住宅用基礎杭として省資源、工期短縮に繋がる商品として適用が拡大しつつあります。

本技報では、最先端の鋼管研究開発の一端をご紹介させていただきますが、今後もお客様からのご要望や信頼にお応えできる、鋼管商品の開発を進めていく所存であります。引き続きご支援ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

\* 鋼管事業部長